

学業充実WG・安全安心WG(第1回)の振り返り

日本版NCAA創設に向けた学産官連携協議会
第1回マネジメントWG

2017年10月23日(月)9時～12時

第1回学業充実WG(2017/10/13開催)振り返り① ~ワークセッションでの意見~

【テーマ】 学生アスリートを取り巻く学業関連の課題は何か

■ 検討の進め方

- ✓ 学業とスポーツの両立を考える学生とスポーツ中心の学生がいるため、それぞれ異なったアプローチが必要
- ✓ 周りの環境、指導者、競技団体(学連)、学生の保護者などについても日本版NCAAがどのように取りまとめて利害調整を行っていくかを検討するかの検討が必要
- ✓ 認識の違いや大学の機能の違い(体育系の大学かどうか)なども考えて、基盤づくりを行っていくことが必要

■ 学生が学業を受ける権利の確保

- ✓ 練習時間の制限や平日の試合開催の回避が課題。個別の大学では対処が難しいが、日本版NCAAができればうまくマネジメントしていくことが可能ではないか
- ✓ 入学の時に、一定程度の教育を行うことを大学が責任をもつというメッセージを出すことが必要
- ✓ 統一的な指導要領を用いて、現場の指導者に睨みをきかせる機能を日本版NCAAは有するのではないか。一方、学校によって方向性や特徴が異なるため、統一的な学業の成績を定めるのは難しいとの意見も

■ 学業とスポーツの両立

- ✓ 全国アスリート入試などを実施してクリアした人だけが、NCAAに入れるようにするという提案もある
- ✓ 学生が地域貢献を行う取り組みや、社会に活躍する人の話を聞くなどの教養プログラムの設定が望ましい。単独の大学では実現が難しいため、統括的な組織があるといい
- ✓ 大学の自治と主体性を重視してきたが、重視と放任は異なり、学生の自治と主体性を確保するための時期がきている。非社会的な行為や平日授業を欠席することが学生アスリートに生じており、NCAAはそのような現状を変えていける

■ 大学コミュニティの一体化

- ✓ スポーツ推薦で入学してきた学生が一般学生と交わらないまま卒業し、社会人になっても実業団に入ってしまうため、一般学生は応援する気も起きないことがある
- ✓ 競技以外の授業を通じて、横のつながり(友人)でき、キャリア支援を通じて縦のつながりができる。縦と横の支援をNCAAができることが重要

第1回学業充実WG(2017/10/13開催)振り返り② ~ワークセッションでの意見~

【テーマ】 学生アスリートを取り巻く学業関連の課題は何か

■ 学生アスリートの就職

- ✓ 売り手市場であるが、バブルの頃とは体育会のプレミアムが違い、今は落ちてきている。理由は求められる人物像が変わってきており、以前は「会社人」、今は「社会人」が求められるため
- ✓ 各大学でスキルを育むのは難しいため、NCAAで大学横断的にリアルキャリアを作っていくことが必要

■ 大学部活動と大学の関係

- ✓ 課外の活動であるため自治体組織にはなっているが、ほぼ大学側が援助をしているため、お金の動きも大学側が中心となっている
- ✓ 100%保険の加入が義務付けられているのは大学側としてすべてチェックをする
- ✓ 学内にトレーナー組織があり、ここには学生が将来トレーナーを目指したいとか、医学的な知識を持った中で対応、応急処置ができるという、将来APの資格を取りたいという学生の組織が、各クラブに張り付く仕組みになっているため、救急時も初期的な対応を適切に実施できる体制となっている

第1回安全安心WG(2017/10/11開催)振り返り① ~ワークセッションでの意見~

【テーマ】 学生アスリート・指導者が安全・安心に活動できる環境を整えるためになすべきこと

■ 事故や怪我のデータの集計・分析

- ✓ 大学スポーツの事故・怪我に関する統計がないことが課題。スポーツ安全保険の大学生に関するデータでも、事故の発生原因(運動部活動中のものか、それ以外か)は不明
- ✓ 突然死などの重大事故のデータが重要であるが、頻度が低いため各大学が連携し集約することが必要

■ 責任の所在の明確化、事故や怪我の報告・共有の促進

- ✓ 課外活動であることに起因し、事故が起きたときの責任の所在が分からない
また、部活動側の責任問題となり試合に出場できなくなるような事態を恐れ、事故を隠そうとするインセンティブが働き、事故の情報が報告・共有されない
- ✓ 事故の情報を報告させるため、保険金がしっかり給付される点や大学側として訴訟対策となるといったメリットの検討が必要である
- ✓ 好事例と事故多発事例を出して、実態調査をした上で議論を進めていく必要がある
- ✓ トップアスリートを目指す部活動とそうでない部活動の区分けをした上での検討が必要である

■ 指導者

- ✓ 指導者の安全に対する意識が低いことが課題である

■ 日本版NCAAに期待される機能

- ✓ 日本版NCAAに期待されるのはドクターやトレーナーの配置に関する提言
- ✓ 熱中症や落雷などどんな競技でも起こりやすい問題への対処方法を纏めたハンドブック・ガイドラインを、日本版NCAAで作成し、配布することも有用

■ 保険

- ✓ アメフトは危険なスポーツであるため保険料が高いといった種目別に保険料が異なる状況が生じている。全競技一体的な保険とすることを旨とした検討が必要である

第1回安全安心WG(2017/10/11開催)振り返り② ~ワークセッションでの意見~

【テーマ】 学生アスリート・指導者が安全・安心に活動できる環境を整えるためになすべきこと

■ 日本版NCAAへの期待

- ✓ 日本では大学スポーツが課外活動であり、大学により管理・支援が難しいことが問題の根本。学生の安全は大学が管理することが本質であり、大学(学長等)が自分達の学生の命に責任を持つことがもっとも根本的かつ重要な要素。大学が一義的に責任を持ち、その集合体がNCAAという関係があるべき関係である
- ✓ 問題の根本への対処をしないまま個別の議論を進めてしまうと、部分最適になってしまう。トレーナーを雇用するのも、施設・設備を改善するのも大学側の負担増となり、大学側としてそれに見合うメリットを認識することは難しいのではないかと思われる
- ✓ 大学部活動を活性化させる上で、学生の安全確保のための取組を支援する組織として日本版NCAAを組成するので参加すべき、と呼びかければ、加盟による負担が大きくなければ、大学(学長等)の賛同は得られるのではないか。具体的な対策は大学ごとにできることが異なっても、対策の指針を提示することで学内の取組が良くなっていくことが期待できる
- ✓ ベンチマークとして米国の安全基準を当てはめた場合に、日本ではどれだけのスタッフが必要となり、どれだけのコストが掛かる、といった地に足のついた検討を、マネジメントWGと併行して実施していく必要がある